

事務事業実施状況及び経営状況 評価シート(令和3年度分)

団体名	公益財団法人静岡産業振興協会	所管課	産業振興課
基本理念	地域産業の発展による元気な地域づくりを目指して		

《経営計画書 取組状況》

1 事業面における取組状況等

項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4
I 市民の期待・協会の役割<静岡市とのパートナーシップによる地域経済活動への支援> 1 地域に経済波及効果をもたらすツインメッセ静岡の活用 関係課：産業振興課	年間来場者数 ⇒ 令和3年度 100万人 経済波及効果(平成28年調査結果163億4000万円) ⇒ 163億4000万円以上(令和3年調査予定)	年度計画	—	小展示場の利用率 37%以上	小展示場の利用率 38%以上	小展示場の利用率 39%以上	小展示場の利用率 40%以上
		実績	30.4%	34.7%	24%	28.6%	
		進捗状況	—	ほぼ達成	未達成	未達成	
		年度計画	—	自主事業開催に向けての調査、検討	自主事業開催に向けての企画案の策定	自主事業の開催準備	自主事業の開催
		実績		自主事業事前検討報告書の作成完了	自主事業企画案の検討	地場産業フェスティバルの実施	
		進捗状況	—	実施	実施	実施	
		年度計画	—	「BtoB」催事開催に向けた情報収集調査等	企画案を元に関係団体へのアプローチ	「BtoB」催事の誘致・開催	「BtoB」催事の誘致・開催
		実績		「BtoB」催事の開催予定候補3件獲得	関係団体へ接触	関係団体との関係を構築中	
進捗状況	—	実施	ほぼ達成	未達成			
1	取組状況達成に向けた課題等	・小展示場の利用率向上に向け、行政や過去に利用のあった主催者にアプローチしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により催事開催の目処がたたない主催者が多くみられ、利用率の目標を達成できなかった。今後は、当協会が主導して、地元中小企業や地場産業を対象とした新たなビジネス交流の場を提供していく。 ・令和4年度の開催を目指していたモノづくりと子供を対象にした自主事業の開催については、ツインメッセ静岡開館40周年記念の機会をとらえ、令和3年8月に「地場産業フェスティバル」として、当初の計画から1年前倒しで実施した。 ・「BtoB」催事の開催の誘致に向けて首都圏の大手イベント企画会社にアプローチし、静岡県、静岡市、するが企画観光局等の関係団体とともに市内MICE施設の視察会を開くなど関係の構築を行っているが、静岡市での開催意義の模索など難易度が高いと感じている。今後は、中部横断自動車道の開通を契機とした交流イベントや、海に面した地域性を活かしたフィッシング関連のイベントなど「BtoC」にも視野を広げて検討していく。 ・令和3年度の「来場者数100万人」及び「経済波及効果163億4000万円以上」の目標は、いずれもコロナ禍においては通常時の結果が得られないため、改めて次期経営計画の中で目標値を検討する。					
	関係課意見	小展示場の利用率が未達成であったのは、小展示場の主要催事であった即売会での利用の減少等、新型コロナウイルス感染症による外部要因が大きいと認識している。 一方で、コロナ禍における催事を取り巻く環境の変化が激しい中、安全対策を施したうえで、自主事業を開催した点は評価できる。今後とも関係団体と連携したMICE誘致に関する継続した取り組みを要請するとともに、「静岡ホビーショー」をはじめ長年蓄積してきたツインメッセ静岡のブランド力や強みを活かしていく方法や、時代の変化や地域経済界のニーズに応じた催事の誘致等について、協会と協議・連携を行っていきたい。					

	項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4	
2	1 市民の期待・協会の役割<静岡市とのパートナーシップによる地域経済活動への支援>	全国規模の工芸展覧会に出品できるレベルの人材の育成 ⇒ 令和4年度3点出品	年度計画	—	熟練者コース新設に向けた支援体制の整備	熟練者コースの新設	東海規模の展覧会へ5点出品	全国規模の展覧会へ3点出品	
			実績	東海伝統工芸展1点入選	・先進地の視察2ヶ所 ・検討会議3回開催	熟練者コース新設準備完了	「国展」へ1点出品 奨励賞受賞		
			進捗状況	—	一部実施	一部実施	一部実施		
	2 将来を見据えた地場産業支援	Gマークを取得できる商品 ⇒ 令和2年度から毎年1件開発	年度計画	—	グッドデザイン賞取得に向けた支援体制の構築	グッドデザイン賞取得1社	グッドデザイン賞取得1社(累計2社)	グッドデザイン賞取得1社(累計3社)	
			実績	—	Gマーク取得支援のための助成金制度を構築	Gマークの取得に至らず	Gマークの取得に至らず		
			進捗状況	—	実施	未達成	未達成		
	関係課: 産業政策課	「産業フェアしずおか」の来場者数 ⇒ 令和4年度10万人以上	年度計画	—	来場者数9万人	来場者数9万5000人	来場者数9万8000人	来場者数10万人以上	
			実績	8万7300人	7万7800人	1万4,800人	3万600人		
			進捗状況	—	未達成	未達成	未達成		
	取組状況達成に向けた課題等	<p>・熟練者コースの名称を「静岡 匠の技継承講習会」(通称「Tコース」)とし、令和3年度から新設予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や、講師の体調面などを考慮し、中止した。伝統工芸技術の継承の取組については、今後、地場産業支援における協会の役割などを再認識する中で、支援の仕方などを改めて検討していく。</p> <p>・開発商品と開発メーカーの社会的価値向上を目的としたGマーク(グッドデザイン賞)取得支援を行い、2社が挑戦した。そのうち1社は1次審査を通過したものの取得には至らなかった。今後は、過去の受賞者や審査員等にヒアリングし、傾向と対策を研究していく。</p> <p>・産業フェアの来場者数は、コロナ禍の中で増加は望めないため、令和3年度は目標を「来場者満足度90%以上」に設定したところ、アンケート結果から、98.7%の来場者から「次回もフェアにきたい」という高評価を得た。今後も、地場産業の振興や地域経済の活性化につながるよう内容の充実に努めていく。</p>							
	関係課意見	一部実施又は未達成であったが、新型コロナウイルス禍等による外的要因が大きく、取組みは可能な範囲で実施されており事業内容は評価できる。今後も引き続き目標値達成に向けた取組の遂行をお願いしたい。							

	項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4	
3	I 市民の期待・協会の役割<静岡市とのパートナーシップによる地域経済活動への支援>	新規創業者数・新商品開発件数・新分野進出件数が清水産業・情報プラザと合わせて毎年70件以上	年度計画	—	70件以上	70件以上	70件以上	70件以上	
			実績	88件	70件	70件	60件		
			進捗状況	—	達成	達成	未達成		
	3 挑戦する人や中小企業を応援する都市型産業支援(指定管理業務の着実な推進)								
	関係課: 産業振興課								
	取組状況達成に向けた課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・例年に比べて、コロナ禍を反映して新商品開発、新分野進出実績が少なかった。 ・創業者支援事業では、創業に関する基礎知識習得のため、学生向け起業家育成支援講座、ブレイクスルーセミナー、創業スタートアップ講座、女性起業スタートアップ塾等を実施した。また、ビジネスプランコンテストは通算20回目の開催を迎えることができた。さらに、産学交流センター及び清水産業・情報プラザに設置された創業者育成室への入居者審査会への参加及び入居者による各種セミナー開催を支援した。 ・マーケティング支援事業では、中小企業者の経営基盤強化、発想の転換、マーケティング思考醸成のためのマーケティング支援講座等を実施し、受講者の満足度96%という高評価を得ている。 ・産学連携事業では、産学官コーディネータ会議、会社・研究機関見学、産学共同研究等を通じて、静岡地域の産学官連携を支援した。 ・中小企業等販路開拓支援事業では、高まるDX推進ニーズに対応したセミナーを増やした。 ・今後は、創業後のフォローアップ、高まるDX推進ニーズへの対応強化が課題である。また、コロナ禍によりオンラインセミナーが増える中、創業関連セミナーでは、相互コミュニケーションが重要な役割を果たすので、対面の機会を増やしていきたい。 							
	関係課意見	<p>目標は達成できなかったものの、事業手法については緊急事態宣言やまん延防止措置など、対面での事業の開催が難しい中、オンラインの積極的導入を行い、仕様を満たせるように創意工夫がされていた。またコロナ禍で経済状況が変わる中、事業者ニーズをしっかりと把握し、ニーズの急増しているWEBマーケティングに特化したセミナーを取り入れるなど、事業者に寄り添った指定管理の運営がなされており、評価できる。</p>							

	項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4
4	Ⅱ 懸案事項 〈ツインメッセ静岡「南館」の大規模改修〉 1 ツインメッセ静岡の施設老朽化対策、耐震対策の推進	・南館大規模改修の実施 ⇒ 令和4年度に完了	年度計画	—	南館大規模改修の基本設計完了	南館大規模改修の実設計完了	南館大規模改修の発注	南館大規模改修の実施・完了
			実績	—	南館大規模改修の基本計画完了	南館大規模改修の基本設計完了	・「南館耐震補強・大規模改修工事」として工事発注し、工事請負契約を締結	
			進捗状況	—	一部実施	一部実施	実施	
	関係課: 産業振興課							
取組状況 達成に向けた課題等	<p>・令和3年10月29日に実施設計が完了し、12月20日に「南館耐震補強・大規模改修工事」として発注、令和4年2月18日付けで工事請負契約を締結した。</p> <p>・令和5年4月28日の工事完了期日まで工事の遅れや事故、周辺への迷惑、協会の業務・運営に支障をきたすことのないように工事を進めるよう逐次施工業者へ注意喚起をしていく。</p>							
関係課意見	<p>世界的な原材料価格高騰等経済環境の変化も含め、期日までに確実に完工できるよう、工事の進捗状況について随時連携を行っていきたい。</p>							

項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4	
5	II 懸案事項 〈ツインメッセ静岡「南館」の大規模改修〉	令和4年度の北館大展示場の利用率 ⇒ 70%	年度計画	—	利用停止期間の利用者への告知及びヒアリング	利用者の日程調整(北館等への誘導)とフォロー	利用者の日程調整(北館等への誘導)とフォロー	北館大展示場利用率70%
			実績		令和元年9月よりリピーターへの告知及びヒアリングを開始	日程調整を行い、令和4年度の北館大展示場利用率47%を確保	日程調整を行い、令和4年度の北館大展示場利用率66%を確保	
			進捗状況	—	実施	実施	実施	
	2 南館大規模改修時のツインメッセ静岡貸館対策	改修後(令和5年度)のリピーターの確保 ⇒ 令和3年度の利用者の90%以上	年度計画	—	近隣展示会場の空き状況の提供と優先予約受付	近隣展示会場の空き状況の提供と優先予約受付	近隣展示会場の空き状況の提供と優先予約受付	令和3年度利用者の90%以上が5年度再予約
			実績		・近隣展示会場と協議を開始 ・令和元年9月より優先予約一部開始	・近隣展示会場と協議継続中 ・優先予約調整継続中	・近隣展示会場と協議継続中 ・優先予約調整継続中	
			進捗状況	—	実施	実施	実施	
	関係課: 産業振興課							
	取組状況 達成に向けた課題等	<p>・南館大規模改修に伴い、南館が利用できないリピーターに対し、北館大展示場又は小展示場への誘導、調整等を実施した。現在北館大展示場利用率66%の仮予約を確保しており、さらに利用率70%を目指していく。新型コロナウイルス感染症の影響が減少に向かっており、取りやめた催事の復活や新規利用者の獲得が鍵となっている。</p> <p>・北館大展示場での調整が整わない主催者に対して情報提供するため、近隣展示会場に空き状況提供の協力を依頼した。また、当館における令和5年度の優先予約に関する調整を継続していく。</p>						
関係課意見	<p>本項目について大きな動きは、南館大規模改修の前年度(令和3年度)と実施年度(令和4年度)であると認識しているが、毎年度当施設を利用いただいている主要顧客については、引き続き、きめ細やかなサポートをお願いしたい。</p> <p>また、改修工事の完了する令和5年度に向けて、全館含めた高利用率につながるよう、積極的な催事誘致をお願いしたい。</p>							

	項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4
6	II 懸案事項 〈ツインメッセ静岡「南館」の大規模改修〉	南館大規模改修工事費及び計画修繕経費 ⇒ 第3次総合計画への掲載	年度計画	—	第3次総合計画(後期)への搭載	第3次総合計画のローリング対応	第3次総合計画のローリング対応	南館大規模改修の実施・完了
			実績		令和4年度の南館大規模改修が第3次総合計画(後期)に記載された。	基本設計業務(1/2)及び実施設計業務の財源を確保した。(静岡市補助金)	実施設計業務及び工事に係る財源を確保した。(全額静岡市出資金)	
			進捗状況	—	達成	達成	達成	
	3 南館大規模改修の財源確保 関係課: 産業振興課	令和4年度の南館閉館時の減収の抑制 ⇒ 賃貸料収入額3億4千万円以上(減収1億円以内)	年度計画	—	4億4千万円以上	4億4千万円以上	4億4千万円以上	3億4千万円以上
			実績	4億1,696万円	4億2,886万円	1億9,436万円	4億1,781万円	
			進捗状況	—	ほぼ達成	未達成	ほぼ達成	
	取組状況 達成に向けた課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・南館大規模改修の財源確保に向けて市所管課(産業振興課)と連携して取り組んだ結果、ツインメッセが“産業交流拠点施設”かつ“災害時の広域物資輸送拠点施設”という公益的な役割を担っていることを勘案し、市において、全額を出資金として拠出することとなった。 ・令和4年度の南館閉館時の減収を最小限に抑えるため、引き続き項番5の南館大規模改修時の貸館対策と連動して賃貸料収入の確保に努める。 						
所管課意見	<p>工事の進捗状況に応じた確実な資金拠出を行っていく。 現状は原材料価格高騰等の影響はないと認識しているが、工事の進捗状況を含め費用に関する影響の有無について情報共有を行っていく。</p>							

2 経営面における取組状況(組織・人材・財政面等)

項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4	
7	Ⅲ 協会の経営基盤の強化<協会の役割の着実な推進>	ツインメッセ静岡貸館事業における収入 ⇒ 毎年度4億4千万円以上	年度計画	—	4億4千万円以上	4億4千万円以上	4億4千万円以上	3億4千万円以上
			実績	4億1,696万円	4億2,886万円	1億9,436万円	4億1,781万円	
			進捗状況	—	ほぼ達成	未達成	ほぼ達成	
	1 財政基盤の強化と健全な財政運営の推進	ツインメッセ静岡の管理費支出額(大型修繕を除く) ⇒ 毎年度3億1千万円以下	年度計画	—	3億1千万円以下	3億1千万円以下	3億1千万円以下	3億1千万円以下
			実績	3億2,093万円	3億904万円	2億9,052万円	2億8,429万円	
			進捗状況		達成	達成	達成	
	関係課: 産業振興課 産業政策課	産学交流センター施設利用料 ⇒ 毎年度2,300万円以上	年度計画	—	2,300万円以上	2,300万円以上	2,300万円以上	2,300万円以上
			実績	1,931万円	2,036万円	1,877万円	2,096万円	
			進捗状況	—	未達成	未達成	ほぼ達成	
取組状況達成に向けた課題等	<p>・ツインメッセ静岡では、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、キャンセルが133件発生したが、ワクチン集団接種会場として、市による延べ125日間の利用があり、賃貸料収入(貸館収入)は2年度に比べ約2億2,300万円の増収となった。</p> <p>・令和3年度のツインメッセ静岡の管理費支出(大型修繕を除く)は、2年度に行った事業見直しをベースにして、新型コロナウイルス感染症を考慮した予算を編成し、2年度と同様の支出の削減を図った。</p> <p>・産学交流センターにおいても、新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセルが100件発生したが、7月から市による大会議室の連続使用があり、施設利用料収入は2年度に比べ約200万円の増収となった。</p>							
所管課意見	<p>新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場としての稼働や本市事業での利用等、公的な役割を十分に担い、存在感を発揮したと認識している。</p> <p>一方で、コロナ禍における催事を取り巻く環境の変化が激しい中、関係団体と連携したMICE誘致に関する継続した取り組みとともに、「静岡ホビーショー」をはじめ長年蓄積してきたツインメッセ静岡のブランド力や強みを活かした催事の誘致により、長期安定的な収入源の確保に努めるようお願いしたい。</p>							

項目	目標(評価指標)		H30	R1	R2	R3	R4	
8	Ⅲ 協会の経営基盤の強化(協会の役割の着実な推進) 2 公益財団法人としての役割を担う組織づくり・人材づくり	効率的な事業の推進に向けた運営体制と職員採用方針 ⇒ 令和3年度実施	年度計画	—	—	運営体制、職員採用方針の検討、構築	運営体制、職員採用方針の実施	運営体制、職員採用方針の実施
			実績			検討の方向性及び体制の検討	・退職者補充として令和4年度から職務経験者1名を採用 ・令和4年度の組織体制を見直し	
			進捗状況	—	—	一部実施	一部実施	
	関係課: 産業振興課	職員を対象とした研修制度と業務の適正な評価方法 ⇒ 令和4年度実施	年度計画	—	研修制度、適正な評価方法に関する情報収集	研修制度、適正な評価方法の方針案の作成	研修制度、適正な評価方法の構築	研修制度、適正な評価方法の実施
			実績		職員の研修記録簿の作成、研修体系図等の情報収集	OJT・OffJT等を柱とした研修体系、企業理念等に基づく評価方法の方針案の検討	すでにこれら制度を運用している外郭団体の資料を参考に制度内容について検討	
			進捗状況	—	一部実施(評価方法未着手)	実施	未達成(制度構築まで至らず)	
	関係課: 産業振興課	内部統制に関する各種規程の再整備 ⇒ 令和2年度以降、整備された規程から順次施行し、令和4年度完全実施	年度計画	—	見直す規程のリストアップと4年後の完全実施に向けた工程表の作成	リストアップした規程の当該年度分の見直し完了	リストアップした規程の当該年度分の見直し完了	4年間にリストアップしたすべての規程の見直し完了
			実績		基本方針・行動指針の策定、文書管理規程(案)の策定、工程表の素案作成	「文書管理要綱」策定、「職員業務改善表彰制度」創設、ハラスメント規程等の整備着手	職場におけるハラスメントの防止に関する規程、情報公開規程、個人情報保護規程、特定個人情報取扱規程、保有個人データ等開示等取扱要綱、懲戒委員会要綱の制定	
			進捗状況	—	実施	実施	実施	
	取組状況達成に向けた課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な事業の推進に向け、令和3年度末の退職者補充として令和4年度から職務経験者を1名採用することとした。また、令和4年度の組織改正を行い、管理課では、今後の道筋が示された「内部統制関連業務」を総務担当内で処理することで効率化を図り、業務課では、「業務担当」と「営業企画担当」を統合して「催事推進担当」に再編し、営業活動の増量及び効果的な実施による催事の増加に取り組み、営業強化を図ることとした。 ・研修制度と業務の適正な評価方法については、すでに研修計画の策定や人事評価制度の導入を行っている外郭団体の資料を参考に制度内容について検討を行った。令和4年度中の制度構築を目指す。 ・内部統制に関する各種規程の整備については、組織内の内部統制機能の充実を図るために法令遵守や事務事業の適正な執行の推進に必要な規程等の制定を行った。令和4年度中の整備完了を目指す。 						
	所管課意見	<p>協会の将来を見据える中で、重要かつ長期に渡るテーマである。 研修制度・評価方法等人事管理施策については、環境の変化に対応できる人材の育成・確保や職員のモラル向上において重要な観点であることから、早期の構築をお願いしたい。 内部統制に関する各種規程の整備については、目標を着実に実行していると認識している。</p>						

3 団体の経営状況の総括

当協会の令和3年度の運営に関しては、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、貸館利用において多くのキャンセルが発生したり、一部の事業で実施を見合わせるなどの対応をとったが、それらを除けば、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら概ね計画通り実施することができた。

特に、ツインメッセ静岡の貸館事業では、コロナ禍の中、133件の催事キャンセルがあったが、市の新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種会場として125日間貸し出すことができ、協会として地域経済回復への貢献の一端を担うことができたとともに貸館収入は当初予算額を確保することができた。

当協会主催の「産業フェアしずおか」は40回目の節目を迎え、記念企画を盛り込み、2年ぶりに賑わいを取り戻し、来場者、出展者ともに喜ばれるフェアを開催することができた。

産学交流センターではコロナ禍における各事業の実施も2年目となり、対面とオンライン方式を組み合わせたハイブリッド方式を活用するなど臨機応変に対応することで、新たな事業運営のノウハウを習得できたことは大きな成果となった。

令和3年度の決算額は、収入計669,559千円、支出計566,087千円となり収支差額は103,472千円の黒字となり、これを令和2年度末の内部留保資金に加え、323,328千円を次年度に繰り越す結果となった。

4 今後の方針／新たな課題 など

【今後の方針】

当協会の目的である地域産業の支援を推進していくために、コロナ後の運営戦略を定め、今後、下記項目について市と連携し、具体的に取り組んでいくこととする。

①行政や関係機関との連携のもと、本市が有する強みを活かし、展示会やイベント、各種大会など多様なMICEや催事の誘致を図り、交流人口の拡大に取り組む。

②コンベンション施設としてのブランド力の強化を図るため、本市最大の世界的見本市「静岡ホビーショー」の開催施設であるという優位性を活かし、「ホビー産業の情報発信拠点、ビジネス創出の場」としての地位の確立に取り組む。

③地元産業界を支援するため、展示施設の提供等を通してBtoB、BtoC催事の促進を図るとともに、地域産業喫緊の課題となっているDXや企業・消費者ニーズの多様化・高度化への対応などを支援する。

④公的コンベンション施設としての役割を果たすため、選挙、資格試験など行政の大規模催事に協力するほか、災害等の発生時には、広域的な物資集積や大規模な対市民サービス(例:ワクチン接種)等に施設を提供し、地域課題(停滞する経済活動の回復等)の解決に積極的に貢献する。

⑤産学交流センターは、平成30年度から「清水産業・情報プラザ」も含めて静岡商工会議所との共同指定管理となっており、次期指定管理に向けて、共同指定管理のふり返りを行い、市が求める事業方針に沿って確実に遂行できるような体制づくりを進めていく。

【新たな課題】

・令和4年度に施工する「南館大規模改修」の安全かつ計画通りの実施。

・「南館大規模改修」による休館に伴う施設利用者への適切なフォロー及び改修後の利用率回復、向上へとつなげる効果的な営業の強化。

※経営計画書の見直しが必要な場合には、その理由とともにその旨記載してください。

5 市への要望・意見

(1)当協会が市の産業施策の実行部隊としての役割を果たすことができるよう、協会と連携した事業推進を要望する。

①コンベンション施策(=経済交流)への支援

・当協会は、市内唯一の経済交流系のコンベンション施設であるが、協会独自のネットワーク、人材、ノウハウ、財源等に限界があるため、市の掲げる重点産業や経済波及効果の大きい広域・大規模なコンベンションの誘致・事業実施にあたっては、市と協会との協働体制の整備のほか、所要の支援を要望する。

(例) 中部横断道沿線エリアとの経済交流、ホビー関連コンベンションの誘致、政府系コンベンションの誘致など

②産業施策のコントロールタワーの役割

・市、指定管理施設、外部団体(当協会、特産協、匠宿、楽市)が有機的に連携して産業・企業支援施策を実施できるよう、施策の立案、施策調整などに取り組むことを要望する。

(2)市OB職員の当協会への再就職者確保について要望する。

・当協会の目的を達成するために、地域の産業や経済、大規模施設の維持管理や改修、人事管理や事務管理などの分野における行政経験が豊富な人材を必要としており、これまで通り市OB職員の受入を希望している。

・市におけるOB職員の再任用などの給与条件と当協会の受入条件に一定の差異があるが、当協会の事業内容や役割を考慮のうえ、希望に沿った対応を要望する。

(3)当施設の維持管理に関する継続的な支援を要望する。

・現在、施設の維持継続に要する経費(修繕等)の支援を受けているが、引き続きツインメッセ静岡の役割の重要性を踏まえ、継続的な財政支援を要望する。

※(参考) 全国の他施設(団体自己所有施設)の状況を見ると、建設財源を行政が負担して建設しているなど、施設の性格上、行政の支援が不可欠となっている。

6 パートナーとしての市の取組(所管課記載)

- ・静岡市産学交流センターの音響設備更新を行った。(中小企業支援係)
- ・静岡市産学交流センターの会議室の予約システム導入を行った。(中小企業支援係)
- ・静岡市のデジタル活用事業臨時補助金と連動し、産学交流センターにてIT活用セミナーを実施してもらい、補助金利用促進を図った。(中小企業支援係)
- ・ツインメッセ静岡南館大規模改修工事に対する財源を確保した。(工業振興係)
- ・ツインメッセ静岡の施設機能維持、向上させるための支援を行った。(工業振興係)

7 所管課による総合評価・意見(所管課記載)

ツインメッセ静岡の貸館事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う全国的な催事の大幅減少の影響を受けた中、主にワクチン接種会場としての公的役割で存在感を発揮し収支面で黒字を確保したが、長期安定的な収入確保に向け、「静岡ホビーショー」をはじめ長年蓄積してきたツインメッセ静岡のブランド力や強みを活かした催事、時代の変化や地域経済界のニーズに応じた催事の誘致・各種大会等について協力していきたい。なお、この点については、令和4年8月に新規催事の誘致に成功しており、今後も同様の案件が増加していくことが望ましいと考えている。また、施設の維持管理に向けた支援についても、施設の重要性を十分に踏まえ、財源の確保に取り組んでいく。

協会全体としては、DXをはじめとする各種オンライン化の進展、消費者・事業者ニーズの多様化等、産業支援団体としての対応事項が今後も増加していくと考えられることから、多面的に協力関係を構築していくとともに、市が所管する各施設や外郭団体等、担当部署にとらわれず連携を促進することで、有機的な産業支援体制を構築していきたい。